

91人の子を育てる地域・学校協議会

勝山市立北郷小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項 目	回 数
地域・学校協議会	3 回
中学校区を単位とした協議会	3 回
地域及び家庭への学校公開	10 回 (のべ) 10 日

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	2 人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	1 人
登下校支援ボランティア	130 人
その他 (読み聞かせの会)	150 人

(3) 特色ある活動

テーマ「心豊かな子どもを育てる取り組み」

具体的活動内容

わくわく合宿 (地域の公民館で3泊4日の合宿通学)・・・4年生対象

- 1日目 (9/14) 入所式・料理体験・エコキャンドル作り・もらい湯体験
- 2日目 (9/15) 銭湯体験・布ぞうり作り体験
- 3日目 (9/16) 魚つかみ体験・環境の話・もらい湯体験
- 4日目 (9/17) 親子エコバッグ作り・親子で掃除・退所式

- ・本年度は「エコ」をテーマに体験に取り組んだ。物に何の不自由も感じたことのない子ども達に「不要品をもう一度生かす」という体験をさせた。廃油がキャンドルに、着られなくなったTシャツが布ぞうりに、新聞紙がバックに生まれ変わることで、エコに対して興味を持つようになった。また、どの作品作りにも集中して取り組み、存分に達成感を味わうことができた。
- ・食事ボランティア、生活支援ボランティア、体験活動ボランティアなど、大勢の人の協力なしではわくわく合宿は成り立たないことが十分理解できた。また、もらい湯体験では、一般家庭のお風呂に入れていただいた。他人の家への出入りの仕方やお風呂の入り方などマナーを習得するには絶好のチャンスだと考える。自分の家ではやはり甘えが出てしまう。「緊張した環境の中で、自分のことは自分です。」ことを身につけさせるには、大変効果的であった。
- ・もらい湯から戻った子ども達を待ち受けたのは、キャンドルの明かりであった。生活支援ボランティアの方々の演出であったと聞いている。公民館前に並べられたろうそくの灯が子ども達の心に温かさを運んでくれた。「みんなに見守られている。」「みんなが待っていてくれた。」というほのぼのとした気持ちになった。
- ・この行事の食材にしようと、学級園での野菜作りを計画した。話し合いの結果、かぼちゃやじゃがいもなど、保存ができていろいろアレンジできそうな野菜に決定した。毎年、野菜を作っているが、目的がはっきりしているので今年は一段と精を出して作業に励んでいた。



【キャンドル作り体験】

成果と課題

- ・当日までの準備や指導者との打合せにとっても時間がかかったが、自分の力でやり遂げることの楽しさを味わわせることができた。子ども達は元来、何でも自分でやってみたいものである。そのやる気をなくさないようにどの辺りで手を差し伸べるかが重要である。
- ・体験から何を学ぶのかを明確にして、その上で体験に取り組ませることが大切である。課題の持たせ方が体験から学ぶ価値を左右すると思う。